

令和7年7月22日

意見発表

◆西村くにご委員

私は、公明党神奈川県議会議員団を代表し、意見発表を行います。

まず、未病指数の利活用の促進についてです。

高齢者や働く世代における利活用を推進するため、健康診断の待ち時間に、認知機能やメンタルヘルスストレスの測定を推進するというものです。未病指標の活用により、未病の見える化を推進するとともに、未病改善に向けての取組をセットで県民に示すことが重要と考えます。測定結果が思わしくなかった場合、どこに相談し、どのように行動をすればよいのか、例えば、本県では、健康医療局の健康に係る相談窓口や、産業労働局の働く人のメンタルヘルス相談が設置されていますが、未病指数の測定とはつながっていないようです。未病対策の推進は、健康寿命の延伸を目指し、県民の健やかな暮らしを実現するためにはあります。測定結果に相応し、実行性の高い取組とされますよう要望します。

次に、我が会派の代表質問から、企業との連携による笑いあふれる環境の構築について申し上げます。

知事からは、子供が集まる施設に笑顔を検知できるウェブカメラを設置し、どのような場面で笑顔が生まれるのかを計測し、笑顔の増加につなげるとともに、笑顔の数に応じて、企業から募った寄附金を活用して子供たちにプレゼントを渡し、さらなる笑顔を生む仕組みするとの答弁がありました。今後は、より多くの企業の参加を促すため、寄附金の目安や上限を設定するなど、企業が予算化しやすく、参加しやすい仕組みを検討するよう求めます。

最後に、我が会派の一般質問から、DXを推進するための庁内支援体制について申し上げます。

デジタル行政担当局長からは、デジタル戦略本部室にデジタルサポート体制検討チームを立ち上げ、継続的かつ効果的、効率的に支援ができる体制づくりに向けた検討を進めると御答弁いただきました。しかしながら、そもそも県庁においては、各局ごとにシステムが構築をされ、複雑化していて、横断的なデータ活用ができていないのではないのでしょうか。

デジタルサポート体制が構築された次のステージとして、デジタル戦略本部室には、複雑化、ブラックボックス化した既存システムの、どれを、いつ、どのように廃棄、刷新するのかを示す役割を務めていただかなければなりません。そのために、先行して実施すべきと思われることを申し上げておきます。まず、デジタル人材の育成について、研修に参加するだけで終わらず、個々の職員のデジタルスキルを明確に評価し、その評価を基に配置を行うこと、次に、デジタル化による作業の短縮やコストカットを示すスケールを、全庁共有の明確なものとする。これらの検討を求めています。

以上、意見・要望を申し上げ、本委員会に付託されている諸議案に対し賛成を表明し、意見発表といたします。